



ウスヒラタケは、ヒラタケと比較して発生温度の幅が広く、比較的高温の条件下でも収穫が可能です。そこで、三重県では大型で、日持ちの良い品種を選抜し、栽培マニュアルを作成しました。空調施設栽培において、夏場の高温時期には、培養、発生温度を24℃前後に設定し、冬場の低温時期には20℃前後に設定することにより消費電力のコストダウンが図れます。

ウスヒラタケ空調栽培マニュアル 2016年3月発行

編集・発行： 三重県林業研究所
〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1
TEL 059-262-0110 FAX 059-262-0960
E-mail: ringi@pref.mie.jp
<http://www.pref.mie.lg.jp/ringi/hp/index.htm>

ウスヒラタケ

空調栽培マニュアル



三重県林業研究所

◆ ウスヒラタケ栽培工程（空調袋栽培） ◆

培地作製



広葉樹オガ粉と米ぬか等の栄養体を、容積比で4：1の割合で混合し含水率を62%前後に調整します。

袋詰め



ポリプロピレン製の袋に培地を2.5～3.0kg程度詰めます。

殺菌



培地内の温度が118℃以上で1時間程度維持し、培地内の害菌を殺菌します。

放冷・接種



クリーンな条件下で1晩放冷した後、ウスヒラタケ種菌を接種します。

培養

1～2カ月



温度20～26℃、湿度70%程度の条件下で1～2カ月程度培養します。

発生処理

1日



培養が完了した袋の側面に切れ目を入れ、発生室へ移動します。

発生

接種より2～8カ月



温度18～21℃、湿度90%以上の条件下できのこの発生を促します。

収穫・出荷

1日



きのこの傘が開ききる前に収穫しパック詰めします。発生処理より初回の収穫までの期間は10日前後です。発生が長期間続き、1菌床当たり合計で700gを超える収穫が可能です。

培養温度別の発生量

培養温度	供試数	発生量 (平均±標準偏差g)	品 種
20℃	4個	721.0±43.7	M系統
22℃	4	785.0±45.8	M系統
24℃	4	697.0±98.9	M系統
26℃	4	724.5±37.3	M系統

培養期間によって有意差はなかった

発生温度別の発生量

発生温度	供試数	発生量 (平均±標準偏差g)	品 種
15℃	4個	677.0±45.8 a	M系統
18℃	4	970.0±47.6 b	M系統
21℃	4	952.5±47.0 b	M系統
24℃	4	611.0±79.7 a	M系統

異なる英文字を付したものには5%水準で有意差があることを示す

品種によって発生状況が異なりますが、菌床からの上面発生、ビン栽培も可能です。